

※「ゆたかさ」部会では、3で述べた社会経済状況の変化の中で、経済的な「ゆたかさ」の追求とともに、経済的な指標だけでは表せない多様な「ゆたかさ」を高めるための方策を中心に議論しました。

#### 4 目指す姿と施策の方向性

人口減少社会の進行など社会経済状況が変化する中で、経済的な「ゆたかさ」を高めていくためには、まず、最先端の技術や地域資源を高度に活用した産業振興やブランド力向上などにより労働生産性を高めるとともに、若者は元よりですが、さらに就労意欲のある女性や高齢者の方々にも容易に就労が可能となるような多様な働き方ができる地域づくりを進め、一人当たりの所得を高めていく取組が必要です。

また、健康をはじめとした安全・安心や地域における子どもの存在も「ゆたかさ」の重要な要素であることから、健康意識の増進を図り、様々な主体の支え合いによる多様なセーフティネットを充実させるとともに、子育て支援を進めていく必要があります。

なお、「ゆたかさ」は単に経済的・物質的なものだけでなく、岩手の自然や伝統、文化など様々な「ゆたかさ」が考えられます。また、一人ひとりの人間が尊重される多様性のある社会そのものが豊かな社会であるとも考えられます。こうした多様な「ゆたかさ」を高めていくとともに、次の世代につないでいくことも必要です。

こうした多様な「ゆたかさ」を高めていくためには、一人ひとりの人間力の向上を図る必要があります。そして、お互いを尊重し支え合う中で各人の能力が十分に発揮できる、特に、若者や女性が活躍できる地域づくりを進める必要があります。また、豊かな地域社会を持続可能なものとするためには、職場を含め社会全体が子どもを地域の宝として育てていく地域づくりを進めていく必要があります。

(目指す姿)

**お互いを認め合い、支えあう地域において、県民一人ひとりが持てる力を十分に発揮し、それぞれの希望が実現できる、多様な「ゆたかさ」あふれる持続可能な岩手**

この目指す姿を実現するため、次の施策の推進を提言します。

##### (1) 強くしなやかな地域経済システムをつくる～多様な仕事、副業もいっぱい、働き方もいろいろ～

生産年齢人口が減少するなかで、一人当たりの所得を向上させていくためには、最先端の技術や地域資源をこれまで以上に高度に活用した産業振興、ブランド力強化などにより労働生産性の向上を図るとともに、意欲のある女性や高齢者などの就労を支援していただく必要があります。

雇用に関しては、経済のグローバル化、IT社会の進展、生産現場における自動化・省力化などにより、産業振興と雇用が連動しない場合もあることから、仕事を創るという観点で起業支援やNPOとの連携など多面的に検討していく必要があります。

本県の農林水産業は、これまで多くの産品において、その生産量などで全国の主要産地の地位を占めてきており、産業別就業人口などでは県内シェアは低いものの、家族型経営を基盤と

して地域全体で産業活動を支え、また地域コミュニティの活力源でもあるなど、本県の社会経済を支える産業であるとともに、国土保全等の多面的な機能を有しているため、厳しい経営環境の中、6次産業化などによる産業競争力の強化や、魅力ある農山漁村社会づくりをすすめる、若者の就業促進や団塊世代のふるさと回帰、女性の活躍の場の拡大などを進めていく必要があります。

また、東日本大震災津波を経た本県として、地域特性を活かした再生可能資源の活用を図っていくことは、自立した地域づくりを進めていくためにも必要な取組であると考えます。

## ア 付加価値を高める

生産年齢人口の減少により地域の中で働いて収入を得る人が少なくなると、県民一人当たりの所得が減少するおそれがあります。意欲ある女性や高齢者などが新たに就労することでこれを緩和することもできますが、製品やサービスの付加価値を高めることが重要です。

そのためには、生産現場の一人ひとりの能力＝技術力、研究開発力などを高めるとともに、組織的にはマーケティング力、さらには経営マネジメント力を強化し、製品のブランド力を高め、世界の最先端分野など他にマネができない分野に取り組むとともに、地域資源を十分に生かした産業振興が重要です。

また、新しいアイデアをもった起業家たちの取組を支援し、経済を活性化させていくことも重要です。

I L Cの国内候補地の決定により、今後、I L Cそのものの最先端の科学技術が地域に広がることは勿論期待できますが、その前提となる施設整備等の段階でも、土木、建築、機械設備など様々な分野において、これまでにない新技術や高精度な技工方法、高品位な部材製造などが随所に求められることが予想され、これも地域産業の高度化と集積、発展の大きな牽引力になるものと期待されています。

この建設とその後の最先端技術の展開を大いに活用していくとともに、そこに集まる研究者をはじめとする世界各国の人々を対象とした生活関連サービス業や教育、余暇文化活動などを支える新しい国際対応型のビジネスなどの発展可能性も大いに広がっているところであり、現段階から将来をしっかりと視野においた取組を進める必要があります。

(取組)

- a 一人ひとりの能力を高める
  - ・ 高い技術をもった技術者を県内に引き留める取組
  - ・ 産学官が連携した人材育成の強化
  - ・ 幼少期からのものづくり・科学技術教育の充実
  - ・ 地場産業のプロ養成教育機関の創設（岩手マイスター制度など）
  - ・ 3DCAD及び3Dプリンタ技術の活用推進と新規事業の開発、起業等の促進
  - ・ 受講者にとって利便性の高い駅周辺での職業訓練の実施
- b ブランド力を高める
  - ・ 地域産業のマーケティング力をはじめ経営革新等につながるマネジメント力の強化
  - ・ 高品質、高級感を前面に出したブランド戦略
  - ・ インターネットの活用による技術や文化の情報発信
  - ・ 伝統工芸品の振興（南部鉄器、ホームспан、漆器、箆笥等）

- ・ 鮮度維持、加工などの技術開発の推進
  - ・ 3Dプリンターの活用によるデザイン力の向上
  - ・ 三陸ブランド再構築（例：海藻の植樹による魚介資源の回復と俵物産品の高付加価値輸出産品の復活支援）
  - ・ 各市町村のブランド化戦略の構築支援（地域資源の保全、文化伝承、環境教育、観光開発、街並整備、地域産品開発など）
  - c 多品種少量生産
    - ・ 時計、衣料縫製加工、医療器具、アニメ・コミック、伝統工芸品などの振興
    - ・ 3Dプリンターを活用した産業振興
    - ・ IT技術を活用した多品種少量生産と一品販売をセットにした戦略の策定
  - d 世界の最先端分野に取り組む
    - ・ ILC建設実現と最先端科学技術産業の振興
  - e 地域資源を生かす
    - ・ 地域の自然、景観、歴史、文化、伝統、食などを生かした観光振興の強化
    - ・ グリーンツーリズム、スポーツツーリズム（マリンスポーツ、スカイスポーツ、乗馬、登山、川遊びなど）の普及促進
    - ・ 伝統工芸品の振興
    - ・ 地域資源の収穫から加工、流通、販売までに精通し商品企画力のある人材の育成など農林水産物の6次産業化の推進
    - ・ 農林水産物の高付加価値化を図る発酵研究拠点の創設
    - ・ 三陸ブランドの再構築【再掲】
    - ・ 地球温暖化に対応した漁業振興
    - ・ 薪ストーブブームを生かした林業振興
    - ・ 夏の涼しさ、冬の寒さを逆手にとった産業振興
    - ・ 空き家を活用したゲストハウスの整備など中長期的滞在型の外国人観光客の誘致強化
    - ・ 岩手ロングトレイルの整備、駅自転車システムの普及促進
    - ・ 再生可能エネルギーの積極活用
  - f 市場を拡大する
    - ・ 大都市、海外への売り込みの再強化
    - ・ 研究開発拠点を岩手に残し、製造ラインを東南アジアに移転する企業への支援（大連、ソウルにある海外事務所の一部をベトナムやミャンマーなど東南アジアにシフトなど）
    - ・ 県内のIT企業を活用した販路拡大
  - g 起業を支援する
    - ・ 産学官金によるベンチャー支援機構の創設
    - ・ 起業コンシェルジュ、起業化支援センターの設置
    - ・ クラウドファンディング※の調査検討及びこれに連動した県単補助金の検討
    - ・ 「身の丈起業」の奨励
    - ・ 小中学校からの起業教育
    - ・ 3Dプリンターを活用したベンチャー起業への支援
- ※不特定多数の人が通常インターネット経由で他の人々や組織に財源の提供や協力などを行うこと

## イ 多様な働き方を可能にする

生産年齢人口の減少による労働力の制約が地域の経済発展を阻害するおそれがありますが、若者や意欲ある女性、高齢者が就業しやすい環境整備を進めることにより、経済成長を目指すことも可能です。働く意欲を高め、意欲のある人が働く割合を高めていくことは、単に所得を増やすだけでなく、個人の自己実現や社会の安定化にもつながります。

また、若者の雇用機会の創出を図りキャリア形成を支援していくことは、若者の将来の生活設計を支援するだけでなく、地域の持続可能性を高めるうえでも重要です。

さらに、東日本大震災津波からの復興の途上にある本県では、県内外の若者たちがいわゆるコミュニティビジネスなどで沿岸地域等において活躍していますが、こうした人たちが地域に定着することで、地域や産業の活性化が期待できます。

(取組)

### a 若者の就労支援

- ・ 小中学生への第一次産業の体験教育実施
- ・ 岩手の企業冊子の作成・学生への配布
- ・ 学校教育におけるキャリア教育の充実と企業側のインターンシップ受入体制の支援
- ・ 就職して数年の若手職員の活躍のPR
- ・ 若者の就農支援の強化

### b 女性の就労支援

- ・ 地域の工業クラブや商工会が設置・運営する託児所を活用した女性就労支援
- ・ 育児休暇など女性就労支援のための制度順守の企業側への徹底

### c 高齢者の就労支援

- ・ 公務員OBを活用したNPO支援
- ・ 農林水産業において様々な技能を持つ高齢者の活用

### d U・J・Iターンを支援する

- ・ 早期Uターン者への奨励金
- ・ U・J・Iターンコンシェルジェの設置
- ・ 週末農業の支援
- ・ リフレッシュオフィスの誘致

### e 働き方を見直す

- ・ 地域全体での定時退社の奨励
- ・ 地元中小企業で働きたいと思うようなPR活動
- ・ NPOも職業の選択肢の一つであることが認知されるようなPR活動
- ・ 職業選択の幅を広げる生涯学習の充実やPR活動
- ・ 「農業＝豊かな生活」を想起させるようなイメージ戦略の推進

### f ICTリテラシーの向上

- ・ 各世代にあった「ICTリテラシー」向上に向けた取組の充実

## ウ 戦略的な企業誘致を進める

本県の雇用の安定と、経済基盤を強化するためには、従来から県、市町村が連携して進め

てきている企業立地施策の展開が引き続き必要です。なお、経済のグローバル化等により一度に大きな雇用を生む企業の誘致は難しくなっていることから、県内経済を中長期的にリードしていく先端科学技術産業や研究開発型企业など、地元企業との相互の技術移転、さらには共同開発など地域産業が全体として高度化し競争力を高めていくような企業誘致を戦略的に進める必要があります。

また、I L Cに対応した産業振興を図る上で、最先端分野の企業誘致だけでなく、基盤的技術産業や生活関連産業などの幅広い分野からの企業誘致も重要です。

(取組)

- ・ 産学官が連携した世界最先端分野の産業を育てる企業誘致
- ・ 場所を選ばないI T企業、コールセンターの誘致
- ・ リフレッシュオフィスの誘致【再掲】

## エ 地域の再生可能資源の活用による自立した地域づくり

大震災津波を経た今日において、食糧やエネルギーを地域で自給できる可能性の高さは本県の強みでもあることから、これらを十分に活用し、自立した地域づくりを進めていくことが重要です。

(取組)

- a エネルギー自給率の向上
  - ・ 海洋風力や地熱発電などによる再生可能エネルギーの積極的活用
  - ・ 企業連携による余剰電力の有効活用
  - ・ ペレット・薪ストーブの低廉化と高効率化の促進
  - ・ ヒートアイランドを防ぐ都市緑化の促進
- b 家庭菜園などの奨励・支援
- c 山・海・川を活用した仕事の創出
  - ・ N P O等による自然の循環を生かした仕事の創出

## (2) お互いを認め合い、支えあう地域をつくる～医療も福祉も心配要らない地域づくり～

人口減少社会にあっても、岩手が魅力ある地域として活力を維持していくためには、県民誰もが健康であるとともに、岩手の将来を担う子どもたちを安心して産み育てていくことができる地域を目指していくことが重要です。

また、県民一人ひとりが様々な場面で岩手の多様な「ゆたかさ」を実感していくためには、地域に誇りを持った人材が主体的に地域の活性化に取り組み、お互いに支え合い暮らしやすい地域を目指していくことが重要です。

なお、人口の減少に伴い、集落や公共交通機関の維持が困難となった場合、高齢者などの生活弱者が日常生活に支障を来すことから、時間をかけて居住地域を集約していく必要があります。

### ア 健康寿命日本一の岩手

世代を問わず県民一人ひとりが生きがいを持って健康に暮らすことが、地域の活力維持につながります。そのためには、医療の充実も必要ですが、医師だけに頼るのではなく、一人ひとりが健康に留意し、地域全体で健康を守る社会を目指していく必要があります。

また、高齢者が暮らしやすい社会は、全ての人が暮らしやすい社会であり、社会全体でバリアフリー化を進める必要があります。

(取組)

- a 健康教育の推進と世代を問わない健康づくり
  - ・ 食育の推進

- ・ 生活習慣病予防教育の徹底
- ・ 安全・安心な岩手の農林水産物を食べることができる環境の維持向上
- ・ 高齢者向けの運動教室の実施など健康増進のための取組の充実
- b 高齢者の生きがい作り
  - ・ 高齢者から若年者へ地域の伝統・文化を継承するための世代間交流の取組の実施
  - ・ 高齢者が働き続けることができる雇用体制の構築【再掲】
  - ・ 技術・技能の向上を求める企業等に対する、技術を持った高齢者による技術指導の取組の実施
- c 高齢単独世帯の増加に対する取組の強化
  - ・ 消防団や民生委員、NPOなど関係機関による地域の見回り体制の強化
  - ・ 高齢単独世帯間の交流の場の整備
  - ・ ICTを活用した在宅ケア・訪問医療サービスの普及・促進
- d 誰もが健康に暮らせる医療体制の整備
- e バリアフリーの推進

## イ 日本一子育てしやすい岩手

夫婦共働きの割合が全国でも高い本県において、地域の支えあいのもと、誰もが安心して子どもを産み育てていくことができる環境を構築していくため、ライフステージに応じた施策展開を図ることが重要です。

また、高齢化社会への対応だけでなく、子育てを考えるうえでも、三世帯同居のメリットを社会全体で見直す必要があります。

(取組)

- a 未婚男女の出会いの場の創出
  - ・ 各種イベントの実施
- b 安心して子どもを産むことができる環境の整備
  - ・ 産科・小児科の地域連携によるいつでもどこでも子どもが医療を受けられる体制の整備
- c 子育て期間中の継続的経済支援の充実
  - ・ 義務教育終了まで学費・医療費を無償化
  - ・ 子育て期間中、子育て経費の一定額助成を継続
- d 子育てに関する支援・相談機能の充実
  - ・ 地域の子育て支援コーディネーターやNPO、関係機関への相談がいつでもできる体制の整備
  - ・ 子育て中の世帯の交流・情報交換の場の充実
  - ・ 育児休暇取得率の向上・子育てを行う女性職員の継続雇用について企業への働きかけの強化【再掲】
  - ・ 保育所の定員拡充や地域の商工会・工業クラブなどが運営する託児所の設置【再掲】
  - ・ 女性の労働者の組織化による職場環境の改善
- e 子育てに希望の持てる教育の実施
  - ・ 子育ての楽しさを伝える教育の実施

## ウ 多様な主体の参画によるみんなで支えあう地域づくり

みんなで支え合う地域づくりを進めるためには、まず、子ども会や町内会といった地域のつながりの重要性を再認識し、強めていく必要があります。そして、県民誰もが地域の活性化・課題解決に向けた様々な取組に参画できるよう、これらの活動に対する県・市町村、NPOなど関係機関の支援や新たな仕掛けづくりを進める必要があります。このような活動では、若者や女性の果たす役割が大きいため、こうした人々の参画を促し、活躍を支援する取組を社会全体で進める必要があります。

(取組)

- a 地域のつながりの強化と活性化
  - ・ 地域通貨の活用の検討
- b 若者が活躍する地域の取組への支援
  - ・ 町コンの積極的な開催
  - ・ 若者主体のイベントの支援【再掲】
- c 女性の地域への参画の支援
  - ・ 育児休暇取得率の向上・子育てを行なう女性職員の継続雇用についての企業への働きかけの強化【再掲】
  - ・ 保育所の定員拡充を図るとともに、地域の商工会・工業クラブなどが運営する託児所の設置【再掲】
- d 高齢者和其他の世代の交流支援
  - ・ 高齢者から若年者に対する地域の伝統・文化継承のための世代間交流の取組の実施【再掲】
  - ・ 退職後の高齢者の社会参画を促す取組の推進
- e 地域の取組を支えるNPOの基盤強化
  - ・ NPOが継続的に活動できるよう人材育成・資金確保に対する支援の強化

## エ コンパクトシティによる「まちづくり」や地域相互補完型のインフラ整備

人口減少社会においては、商店の閉鎖や公共交通機関の廃止などにより高齢者を中心として日常生活に様々な支障が生じることが懸念されることから、地域特性に応じたコンパクトな「まちづくり」を進め、買い物や通院等に困らないようなコンパクトシティ※の考え方を取り入れたまちづくりを住民の理解を得ながら時間をかけて進めることが必要です。

また、地域機能の相互補完を推進するため地域を結びつける交通インフラの整備も重要です。

※ コンパクトシティ：核となる地域を中心として生活圏ごとに生活に困らない生活サービスや地域活動の確立、交通手段の確保を図っていく考え方や取組。

(取組)

- a コンパクトシティの核となる各種サービス機能の集約化と移転の支援
  - ・ 買い物・医療・福祉など生活に必要な不可欠なサービスを核となる地域に整備するとともに住民の移転を様々な方法で支援
  - ・ いわゆる圏域内（中心市街地と周辺居住地との間も含む）の循環型公共交通網の整備
- b 核となる地域と周辺地域の連結強化
  - ・ 地域間を結ぶ交通インフラの整備
- c 広域圏をつなぐ交通インフラの整備
  - ・ 広域圏を結ぶ横軸道路整備

## (3) 多様な「ゆたかさ」を高め、次世代につなぐ～「いいところ」いっぱい！多様性を生かして～

「ゆたかさ」は、単に経済的・物質的なものだけでなく、一人ひとりの人間が尊重される多様性を認め合う社会的な基盤をはじめ、岩手の自然や伝統、文化、田舎ならではの「ゆとりある生活」など経済的な指標では測ることができない様々なものがあります。

また大震災時に、都市型生活や効率性一辺倒の社会システムの脆弱さが明らかになりましたが、地域におけるつながりの強さや平時であれば商品として店に並んでいないような農産物なども含め様々な資源が危機のときに役立ったことを再評価する必要があります。

こうした多様な「ゆたかさ」を高めていくとともに、次の世代につないでいくためには、こうした価値観を子供のうちから学ぶ機会を設けるとともに、人と人、人と地域を結ぶキーマン

の育成を進めていく必要があります。

## ア 多様で豊かな自然の保全と活用

広い県土や多様な地形など豊かな自然環境は、岩手の歴史や人々の営みを豊かなものとしてきました。自然と共生し環境を保全するとともに、これらを有効に活用し、その「ゆたかさ」を次の世代につなげていく取組が重要です。

(取組)

### a 地域の自然を次世代につなげる取組

- ・ 岩手の希少な野生動植物（イヌワシ、アツモリソウ、ハヤチネウスユキソウなど）保護の取組による豊かな自然環境の保全と県内外へのPR
- ・ 循環型地域社会の先進的取組ときれいな空気や水などの生活環境のPR
- ・ 廃棄物の堆肥利用などによるゼロエミッション循環の構築支援
- ・ 集落単位での統一的な景観形成の推進

### b 地域の自然を活用した地域活性化

- ・ 豊かな自然を生かした再生可能エネルギー先進地の創出（太陽光・熱、風力、バイオマス、地熱、水力、再生可能エネルギーのまちづくりへの活用）【再掲】
- ・ 「三陸ジオパーク」の日本ジオパーク認定を記念したシンポジウムの開催及び観光ルート設定など
- ・ 夏の涼しさ、冬の寒さを逆手にとった全国からのアイデア募集や産業振興（「大人のための岩手サマースクール」など）
- ・ オーガニック集落の普及支援

## イ 伝統・文化の次世代への継承

岩手には先人達の長い歴史により育まれてきた伝統、文化という「ゆたかさ」があります。人口減少社会においては、担い手不足により地域に受け継がれてきた伝統、文化の喪失が懸念されることから、これらを次世代に継承していく取組が必要であるとともに、新しい新技術・手法を取り入れた新たな「ゆたかさ」の創造も重要だと考えます。

(取組)

### a 受け継がれてきた伝統・文化を継承していく取組

- ・ 「お祝い事に地域の伝統工芸品贈答運動」の推進
- ・ 小中学生のためのハイテク産業と「いわて最先端ローテク」並列教育
- ・ 運動会、学芸会における伝統芸能披露機会の積極的創出
- ・ 地元の高齢者などを講師とした道徳授業「岩手スピリット・ふるさと学習」の実施（世界から見た岩手、岩手らしさとは？都会よりお金がかからない田舎暮らしなど）
- ・ 食育の推進や、地域の郷土食PR事業の実施（「全国」まめぶサミットなど）
- ・ 高等教育機関における「岩手学」授業の推進
- ・ 漆の木の植樹・育成プロジェクトの推進
- ・ 県内文化財を3Dデータ化し、ネットで公開する取組の推進

### b 新しい技術・手法により伝統・文化に新たな価値を創造する取組

- ・ 起業により伝統産業を振興する起業家へのクラウドファンディングの調査検討【再掲】



- ・ 少量受注に対応するための伝統産業と地元IT企業とのマッチング機会の創出【再掲】

## ウ 多様な人たちが能力を発揮できる地域づくり

多様な「ゆたかさ」が共生する岩手を創造していくためには、県内外、国内外を問わず、様々な背景を持った多様な人間力を有する人々が岩手に集まり、触発しあう地域づくりを進める必要があります。そのためには、「若者」、「よそ者」「バカ者」に寛容な社会を築いていく必要があります。また、様々な活動の核となるキーマンを育成するとともに、NPO等の団体の組織基盤を強化していく必要があります。

(取組)

- a 多様な人たちが集まる仕組づくり
  - ・ 国際リニアコライダー（ILC）の北上高地建設を見据えた外国語講座の実施や文化施設の整備及び文化講座の実施
  - ・ 様々な方が気軽に集まり語り合うことができる場所整備（子ども、学生、障がいのある方、フリーアルバイターなど）
  - ・ 利用者のニーズにマッチした魅力ある公共施設の整備・維持
  - ・ 岩手の多様な地形・風土などを生かしたイベント情報の集約・発信
  - ・ 「空き家」情報の集約・発信と活用による二地域居住の推進
  - ・ 過疎地での週末移住（プチ移住）の積極的推進及び郊外部でのダーチャ村建設促進とグリーンツーリズム、ブルーツーリズムとのコラボレーション企画の実施、情報発信
    - ※ダーチャ：ロシア地方で一般的な菜園付き週末滞在型簡易別荘
  - ・ プロスポーツ支援による地域づくり、スポーツツーリズムの推進
- b 一人ひとりの能力を発揮することができる仕組づくり
  - ・ 県職員版「地域活性化伝道士」一覧の作成及び周知
  - ・ 公務員OBとNPOのマッチングシステムの構築【再掲】
  - ・ リーダーの養成
  - ・ NPO等の組織基盤強化の支援【再掲】

## エ 若者・女性の感性で地域を元気にする取組

次世代を担う若者が主体となった取組や、女性ならではの感性を生かした取組が積極的に行なわれることにより、本県がさらに多様な「ゆたかさ」を持った元気な地域になっていくと考えます。こうした取組に参加する人のネットワークを構築し活性化を促すとともに、地域全体で取組を支援していく必要があります。

(取組)

- a 次世代を担う若者が主体となった新たな「ゆたかさ」の創造
  - ・ 若者による若者向けイベントの支援や情報発信【再掲】
  - ・ 文化・芸術系専門学校生、大学生の連携によるイベントのコーディネート（料理専門学校生による対決、ヘアメイク・服飾専門学校生によるファッションショーの実施と、これらイベントの映像系学生による番組作成など）
- b 女性ならではの感性による新たな「ゆたかさ」の創造
  - ・ 「ものづくりなでしこiwate」の講演会及び職場見学会等の実施

- ・ 女性県職員による素敵な「イワ女」紹介誌の刊行

## オ 岩手に行ってみたくなる情報発信

交流人口の増大を図るためには、人が集まる魅力的な地域を作るとともに、多様なソフトパワーなど岩手ならではの「ゆたかさ」を積極的に情報発信し、岩手に人が定着していく仕組みづくりを進めていくことが必要です。また、他の地域に先駆けた岩手独自の方法により「ゆたかさ」を発信していくことも重要です。

(取組)

- a 岩手ならではの「ゆたかさ」の積極的な情報発信
  - ・ 各市町村による地域ブランド戦略の調査、取りまとめと情報発信の推進
  - ・ 大人向けの高級感のある岩手独自のブランド戦略の推進【再掲】
  - ・ 広い敷地や自然環境（ゆったりした空間）、完全フレックスタイム・5時で帰ることができる生活（ゆとりのある時間）など岩手型ライフスタイルの発信
  - ・ フィルムコミッション、アニメコミッション、マンガコミッションなどへの支援
  - ・ 映画祭の情報発信の強化
- b 岩手独自の方法による「ゆたかさ」の情報発信
  - ・ マンガを活用した地域の魅力発信（WEBマンガサイトによる観光、食、自然などの岩手の魅力発信など）
  - ・ Iターン者、震災復興ボランティアなど「よそからの視点」での岩手の魅力発信（取材とメディアミックスによる情報発信）

※ 本提言における「ゆたかさ」とは次の i、ii、iiiのいずれも意味しており、これらの「ゆたかさ」の実現を目指しています。

- i 1人当たり県民所得などの経済的なもの
- ii 医療・介護・福祉サービスなどのセーフティネット
- iii コミュニティ、自然、景観、風土、歴史、伝統、文化、食、ワーク・ライフ・バランスなど経済的指標では測ることができない多様なもの